

基本構想策定に向けた検討項目について

1 規模	
将来の医療需要に合わせた適正な病床数・病棟などの整備が必要です。 人口動態や高齢化等を見据え、最適な規模を検討します。	
現状	現在の市立三次病院建物の延べ床面積：22,719.76㎡ 病床数：350床（一般病床：350床）
2 医療機能	
地域住民から求められる役割を十分果たせるよう、急性期医療をはじめとした医療提供体制のあり方について検討します。	
現状	標榜診療科：内科，消化器内科，循環器内科，呼吸器内科，糖尿病・代謝内分泌内科，腎臓内科，小児科，外科，整形外科，脳神経外科，産婦人科，皮膚科，泌尿器科，耳鼻咽喉科，眼科，歯科口腔外科，放射線治療科，放射線診断科，麻酔科，緩和ケア内科，リハビリテーション科，リウマチ・膠原病科，血液内科，救急科【全24診療科】 病棟機能：一般病棟入院基本料（急性期一般入院料2）：278床、地域包括ケア病棟：53床、特定集中治療室管理料3：4床、小児入院医療管理料4：15床
3 地域における役割	
公立病院として、地域連携・在宅医療・災害医療・感染症対策等の役割を積極的に担う体制の整備を検討します。 ・大学病院等の高度急性期医療機関との連携や、近隣のクリニックや福祉施設との連携を強化 ・高齢者の増加に伴う、在宅医療の需要増加を考慮した、在宅診療部門の充実 ・災害医療として、大規模災害時でもBCP（事業継続計画）に基づいた医療機能提供可能な施設	
現状	広島大学病院との連携協定、備北メディカルネットワーク 平成26年度地域包括ケア病棟開設 令和2年度救急搬送車数：2,600台、令和2年度時間外患者数：6,870人
4 健康事業の充実	
地域住民の健康維持という観点から、今後、予防医療領域に積極的に関与する必要があります。新病院では、健診センターの継続等、健診機能の強化を図り、第2次三次市総合計画で掲げる、第4章まちづくりの取組第2節安全で温かみと安心感のある「くらしづくり」の創造の一端を担い、産学官連携による事業展開も検討します。	
現状	令和2年度健診センター受検状況（主なもの） ・人間ドック（市町国保及び契約企業等）：1,653件 ・協会けんぽ：2,167件 ・定期健診（職員及び市職員等）：987件

5 研修教育・情報提供体制の構築

地域の病院として、医学生や研修医への研修教育及び市民への医療に関する情報提供を積極的に行う必要があります。

大学や短期大学などの学生や研修医を積極的に受け入れる研修機関を目指します。また、地域住民の健康維持を目的とした市民公開講座等の開催を検討します。

現状	毎年度、医学生実習生、看護、医療技術系実習生多数受入れ 令和4年度研修医 5名 備北メディカルネットワーク主催の初期診療セミナーの開催（令和3年度：4回、通算26回） 病院広報紙「花みずき」の発行 地域の講座等に医師、看護師等を講師として派遣
----	---

6 建設場所等その他必要事項の検討

建設場所及び概算の概算的な概算工事費など多面的に検討します。

現状	病院建設を想定した概算工事費について
----	--------------------